

第2次三朝町教育ビジョン策定審議会 第2回会議 議事録

1 日 時 平成30年11月5日(月)午後6時00分～午後8時30分

2 会 場 三朝町役場2階 第3会議室

3 出席者 【委員】別紙名簿のとおり4名出席
【事務局】西田教育長・藤井課長・角田課長補佐・福田主任・山本主任

4 概 要 【議 事】第2次三朝町教育ビジョン(案)の概要について
ビジョン(案)における専門的見地からの意見交換

5 内 容

(1) 教育長あいさつ

【教育長】・皆さんお忙しい方なので、なかなか会を開催することが難しく、今回は高旗座長欠席のまま開催することになりお詫び申し上げます。

- ・現在の動きとして小学校を統合することが決まり、校歌、校章、通学鞆など事務的な所を進めてきており、学校内の備品や新しい学校の教育課程についても今後詰めていく。
- ・大変ご苦勞をお掛けすることになるが、教育ビジョンという義務教育、教育活動の根幹である目標を、年内になんとかお願いできたらと考える。

(2) 議 事

【副座長】・高旗座長不在のため、本日の座長を務めさせていただく。

- ・本日は焦点を絞って、最初から話し合いを行えればと考える。事務局より前回からの変更点等を柱毎に説明していただき、目標としては最後の基本目標(7)教育目標の充実まで意見交換を行えればと思う。

① 第2次三朝町教育ビジョン(案)の概要について

【事務局】(第2次三朝町教育ビジョン(案)に基づき説明)

- ・今日お配りした資料は、本日不在の高旗座長さんに事前に見ていただいて、指摘があった箇所に修正を加えたものであるため、事前に配布した資料と若干異なる。

【副座長】・では5ページと6ページから説明してください。

【事務局】・まず目次については、現状と課題が追加になっている。それ以外では骨子から膨らんだ部分として、Ⅲ. 基本目標と具体的施策の基本目標がそれぞれ今回肉付けを行っている。

- ・第2次三朝町教育ビジョンの基本的な考え方について、骨子から大きな変更はな

いが、小学校統合について平成31年4月に小学校統合が確定したこと、新学習指導要領が平成32年度に小学校、平成33年度に中学校で全面実施となるため、高旗座長の意見を踏まえ赤字のような表現に修正している。

- ・平成という元号については間違いなく変更になるが、現時点で他に書きようがない。
- ・位置付けについて、現在、平成31年度からの実施に向けて、第11次三朝町総合計画の策定が進められており、当然連携を図る必要があることから記載を追加した。
- ・各計画の実施年度等について、高旗座長からの指摘を踏まえ追加した。

【副座長】・全部読んだが、非常によくまとめられていると感じる。

- ・ご意見があればお願いしたい。

【委員】・対象範囲に保育所とこども園が入っているので、今年度改定された保育指針についても記載を検討していただきたい。

【副座長】・幼稚園教育要領、学習指導要領の記載があり、対象範囲に保育所、こども園とある中で、保育指針も大きく変更されているのであれば、確かだと思う。

- ・幼稚園教育要領というのは、兼務の園長をしていた時に読んだことはあるが、保育指針というのも今年度改定になっているということか。

【委員】・今年度改定されている。

- ・三朝町はこども園があり、公設民営の賀茂保育園も保育指針を基に研修しているため、三朝町の子どもを考えるとときには保育指針の考え方も重要と考える。少し検討していただきたい。

【副座長】・三朝町のこども園は保育指針に基づいて実施しているのか。

【委員】・保育指針に基づいて実施している。

- ・背景や現状の課題等は大きく変わらないが、外国籍の家庭や特別なニーズを要する子どもへの個別的配慮というのは背景の中で大きく出ており、教育要領と重なるものもあるが、検討していただきたい。

【副座長】・検討していただくということでお願いしたい。

- ・現状と課題について説明してください。

【事務局】・児童生徒数の推移について、ここに上げられている内容は、これまでの教育ビジョンに基づき毎年立てられる事業計画から抜粋したもの。現時点では3小学校として児童数を記載しており、推移予測についても比較を容易にするため同様としている。

- ・学力学習の状況として、全国学力学習状況調査の結果をそれぞれ掲載している。点数もだが、全国学力状況調査の中に質問紙というものがあり、その内容を併せて成果指標として反映している。
- ・豊かな心を育む教育活動については、現在の小中学校で取り組んでいる特色的な授業を掲載しており、現状の把握と今後についての記載としている。
- ・体力運動能力の状況については、毎年実施される全国体力・運動能力、運動習慣

等調査結果に基づき記載しており、全国平均と比較とした町の状況を色分けして記載している。

- ・いじめ、不登校防止については、現在の不登校発生数と発生率を記載しているが、これは1年遅れで結果が出るため、平成29年度の全国および県の結果については分かり次第記載する。
- ・特別支援教育における支援体制については、町の事業で特別支援教育支援員を配置しており、過去5年間の配置状況を記載している。
- ・子どもの貧困問題への対応については、学校生活の支援制度である就学援助費の活用件数等について記載しており、状況としてはやや増えつつある。
- ・学校教育施設の状況について、現在の施設環境等について記載しており、赤字部分については、高旗座長から喫緊の課題として指摘を受けて追加したもの。

【副座長】・まずは児童生徒の推移から、何かあればお願いしたい。

- ・幼児数や園児数はないが、そのあたりはどうか。

【委員】・大綱の中に幼児教育の部分が入れれば、保育園はそれぞれの特性を生かす運営方針となっているため、あまり具体的なところまでは必要ない考える。

【副座長】・統合した時の児童数を見ると適正な規模だと思う。委員さんはどうか。

【委員】・現状という事なのでこれで良いと思う。

【副座長】・では学力、学習の状況について、この全国学力状況調査はあくまでも学力の一部であるが、一部であっても出来ないよりは出来た方が良い。その点で三朝町はしっかりと取り組んでいるのだと思う。

- ・教育長が前回、三朝町は活用のB問題が弱いと言われたが、見て分かるとおりに全国的に活用は弱い。

- ・委員さんに伺うが、高校に入ってきた時、同じように活用が弱いと感じられることがあるか。

【委員】・高校に入ると更に知識が増える。今まで積み上げたものに高校の知識が加わることで、自ら学んでいくことは必要なことかと思う。

【委員】・教育ビジョンは各町村が作っているものか。

【事務局】・中部の状況でいくと、教育ビジョンではなく教育振興計画を作っており、その中で5年、10年という計画をしている。

- ・三朝町の場合、基になる教育ビジョンがあったため、今回の改訂する教育ビジョンも、教育振興計画とある程度組み合わせたものをと考えている。

【委員】・比較の原理というか、こういった書き物は独り歩きするため、数字を記載することは切ない。

- ・どこの市町村も全国学力学習状況調査の実態をしっかりと押さえ、教育の中身を充実させていくということであればそうだが、この数字を10年先に誰がどう使うのか。

- ・私はこれを見た時、全国や県との比較が先行したが、ビジョンの中にこういった数字を入れる目的、教育の中身として先生方が使うということがハッキリしてい

れば良いが、そのあたりはどうか。

【副座長】・全国学力量習状況調査は、その学校がどの程度の力を付けているか客観的指標とするもので、当初ここまでオープンにするものではなかったが、新聞等が順位を付け始めた。

- ・学校では他との比較の為ではなく、あくまで6割、7割しか取れていなければ、それをどうするかという使い方をしている。
- ・しかし、説明責任ではないが、数字を明記しないまでも全国平均に対しどの程度でやっているのか、学校の状況を地域等外部に対しても説明しなさいという流れがある。

【委員】・文書のみでも十分に把握が出来るため、ここまで数字を出す必要があるのかなと感じる。少し検討していただきたい。

【委員】・学力テストが良い悪いは別として、ここに全国学力量習状況調査結果が記載されているのは成果指標として用いるためであり、指標には数字で示される部分が大いかなと思う。

- ・前回の会の中で測るものが必要という話もあった。

【委員】・目的がはっきりしていれば良いと思う。

- ・載せ方は工夫していただきたい。

【副座長】・概要版として町民に配布される物にここまでのデータが載るか。

【事務局】・ここまでの物ではなく、イメージとしては後半の基本目標等をまとめたものが、概要版になるのではないかと考えている。

【委員】・PDCAのチェックの中で、この数字が必要かどうかという議論をすれば良い。

- ・成果指標のために出したのであれば、点数まで出す必要はないかなと思う。

【委員】・10年を見込んだ教育ビジョンの中でどこまでのものが、どういうことで必要だということがしっかり納得できれば良い。

- ・教育は先生方に任せないとできないため、先生がよりどころにできることが大事。

【委員】・ただ数字を載せるだけではなく、先生方にどういう使い方をしてくださいということ、上手く伝えられるような表示の仕方が良いと思う。

【副座長】・豊かな心を育む教育活動について、未来を拓けみささっ子創造事業とは中学生だけが対象か。小学生はどうか。

【事務局】・隔年で中学生用の講演会や小学生用の講演会を実施している。

【副座長】・小学生が入っているのであれば、取り組み内容の「生徒」を「児童、生徒」に修正をお願いします。

- ・その他はどうか。

【委員】・10ページ3段落目「取り組み」という言葉について、9ページでは取り組まれている「事業」と表現されているため、統一されてはどうか。

【事務局】・「取り組み」という表現を「各事業」という表現に変えるという事で良いか。

【委員】・良い。

【副座長】・2020年という西暦の表現について、今までは元号で記載されているが、これにつ

いてはどうか。

【事務局】・表現について悩んでいる。

【副座長】・これまで平成で表現されているので統一した方が良い。

- ・10 ページ2 段落目が長い。県営ダム～相互交流を深めの部分は必要か。
- ・今後幅広い世代、分野で交流を行っていくことが重要と書かれているが、前段に相互交流を深めて友好都市盟約を締結したとある。どういうことか。

【事務局】・前段の相互交流は町民同士の交流のこと。それにより友好都市盟約を交わし、今後子どもたちの交流も深めていきたいという表現だが、少し長いかもしれない。

【副座長】・一文でつながっているので読みづらいと感じる。

【事務局】・「本町と～」から「交流を深め」までは抜いても良いかもしれない。

【副座長】・概要版のことも考えると、もっと短く分かりやすい表現の方が読みやすいと思う。

- ・体力、運動能力の状況について、何か気が付いたことがあればお願いしたい。

【事務局】・8 ページの全国学力学習状況調査の結果の数字の記載方法を考えるのであれば、11 ページの調査結果についても同じことが言えるのではないかと考えるが、それについてはどうか。

【副座長】・教育委員会や学校、この委員会等で協議するためには必要なデータだと思う。

- ・種目毎に点数が配置してあり、その合計が100 点になる。

【委員】・標準偏差から割り出した10 段階等での評価だと思うが、そうであればその時々で標準偏差も変わるため、評価点も変わってくると思う。

【副座長】・鳥取県の場合がどうか分からないが、私たちの体育という副読本の中に「何秒～何秒が何点」等と数値化されているため、これまでのデータを基に出していると思う。

【委員】・今、学校体育が問題になっているということを聞かれたことがあると思うが、こういう数値が何を意味するかということが1 番大事。

- ・小学校の先生でも身体のことを専門でない方がこの数字を見ると、何点何点という評価の仕方をするが、我々はなぜ俊敏性がないのか、なぜ柔軟性がないのか、原因を探るような数値の使い方をするので、そういったことでは使える。

【委員】・10 ページの最後、「今後も生徒児童の生活習慣を～」が漠然としているため、どう基準と結びつけてまとめるのが良いか、委員の意見を伺いたい。

【委員】・今我々の中でも体育という言葉が問題になっており、「体を育む」という子どもの時に得なければいけないもの、例えば転び方などはスポーツテストにはなく、学校の先生も教えられるかと言われれば、教えることは出来ないということで行き詰まっている。

- ・小、中学校の年代別にある程度のことをやらないといけないが、それも文科省では設定できていない。しかしこのレベルでそこまでは出来ないの、数字については走るのが早いとか、敏捷性が良いといった使い方しかできないと思う。
- ・今問題と言われるのは、転び方が出来ず怪我をしてしまうということ。昔はこれを柔道等で行っていた。他にも遊びの中で雲梯やロープ登り等がなくなってきて

いるだろうと言われているが、現場ではどうか。

【副座長】・1、2年生は体育というより基本の運動ということで、私たちが現役の時は遊びの中でやっていたこと、例えばお話しにあった転び方などを、あえて行っている。ただし、あくまで授業として行っているため、遊びの中で自然に身に着くのが本来だと思う。

・柔軟性がないということで、西小学校が佐分利教授と連携したエクササイズを行い、柔軟性が増したという記事が日本海新聞に出ていたが、データを見てここが弱いからどう高めるかということ、学校で考えるしかないのかもしれない。

・ここは論議が飛躍している。

・「運動、スポーツの生活習慣化を図り」とあるのは良いと思う。

【委員】・幼児教育の中で運動させておかなければならないということで、特に東部で研修が進んでおり、若い先生方が少しずつ受けている。

・遊びや自然環境が変わる中で、全国的に運動の技能のようなものを小さいときから、というような傾向になってきている。

・今でなければできないことをやらせるのではなく、主体的にどう行わせるか。

・年長児と小学1年生とのつながりも大事だと思うので、みささっ子を考えるとき、これらも少し考えていただきたい。

【副座長】・文書に表すという事か。

【委員】・文書に表れなくてもいい。

・体力や運動能力で、今後課題になってくる部分があると思い提案したもの。

・今これが重要だということを、ビジョンではある程度提案していく部分があっても良いと思う。そういう気持ちで意見した。

【委員】・小学生の児童の場合、スポーツというのを使わない方が良い。今は、競争させるべきではないという意見が多く、スポーツは中学生以降という考え方による。

・発達のことから言えば、筋肉、骨格の発達は大体6歳、7歳。よく言われるのはゴールデンエイジ。

・スキヤモンの発育曲線では、神経系やリンパ系など4つの型に分類され、0歳から20歳までの成長度とグラフ化されているが、年代別に何をしなければいけないという具体的なものはまとまってきつつある段階で、まだ誰もはっきりとは言い切れない。

・小学生に必要なのは、競争ではなく自分の運動能力をどう高めるか、中学生は自分に負けない心を作る、高校生でスポーツ、競技になっていくという各段階がある。

・ビジョンに盛り込むとすれば、児童（小学生）の場合はスポーツではなく運動を行い、生徒（中学生）の場合は競ったり、自分のフォームを取得するなど、それぞれのレベルがあるという事を先生方にも分かってもらえるようにできればと思う。

【委員】・運動の分野ですごい内容の研修が増えてきている。

- 【委員】・現状と課題というタイトルを考えれば、最後の2行は課題が明確ではない。
- 【委員】・漠然としている。
- 【委員】・発達段階に応じた指導といった言葉などを入れても良いかもしれない。
- 【委員】・三朝はスポーツ少年団など、スポーツの部分で県内で評価されている。社会教育の中でもスポーツの部分は断トツだと感じているので大事にしたい。
- 【委員】・断トツなんですか。
- 【事務局】・最近はそうでもないかもしれない。
- 【委員】・すごく熱心で、私が教育委員会にいたころはいつも上がっていた。
- 【委員】・ただ、今問題になっているのが、子どもが親の肩代わりにされていて、勝負ばかりに向かっていること。
- ・色々身体を壊したりしており、甲子園でさえトーナメントが悪いとか球数制限とか批判される中で、なぜそうなっているかと言えば、全て商業化のため。ドラフトに掛かれば何億というお金が動く。
 - ・野球とサッカーはそれがどんどん低年齢化しており、小学校に全て落とし込んでいっている。
 - ・私はそれは間違いだと思っており、ビジョンにも入れた方が良くと思う。
 - ・こういったものは共通認識を持つことが大事。
- 【委員】・研修が増えているということは、それだけ年齢的に抑えるべき課題があるということ。
- 【事務局】・私たちを含め、小さいころは山や川で遊び、体幹を鍛えながら体力も付いていった部分が最近なくなっているので、そのあたりをどうにかしないといけない、というような表現ができればと思う。
- 【委員】・特に三朝町のビジョンなので、何を大事にするかといったときに、そういったことを入れていただきたい。
- 【委員】・子どもは大人のスモール版ではないということを入れていただきたい。
- ・大人と同じようなことをさせようとする指導者が多いが、子どもの身体の発達の過程なので、大人とは全然違うということを先生にも認識してもらわなければならないし、スポーツ少年団等の指導者にも教育するべきであり、学んでもらわなければならない。
- 【副座長】・どうしても勝つことが前面に出てしまっている。
- ・高校野球でも優勝するようなピッチャーが投げすぎるので、プロで伸びないというような事もある。
- 【委員】・そうすると、(4) 体力・運動「能力」とあるため、能力を測るものというところと10ページの調査になり、その後の指標になっていくと思う。
- ・健やかな身体の育成と考えた時には、能力というよりも、今の子どもたちの運動の状況というような表現が良いのかもしれない。
- 【委員】・中学生くらいになると、そこに競争が入り心を鍛えるため、そういったところで小学生とは違うということがこの中でうたえて、共通の認識を皆さんで持てれば

良いと思う。

- ・スポーツが商業化されてしまい、それが全て子どもに落とし込まれてしまっていることは大きな間違いだと、ここで言っても良いと思う。
- ・一番の問題は親。

【副座長】・体操とかでも小学校、中学校から活躍している子の親はすごい。

【委員】・この数字はあった方が良いか。

【委員】・数字があった方が良いと思うが。

【委員】・これはあった方が良い。子どもの成長が見えるような気がする。

【委員】・最後のところに体力合計点とあるが、こういう事を出すからダメだと思う。

- ・合計点で競わせるものではなく、項目毎に個別性の原則があり、それぞれ違う。例えば柔軟性、イチローはものすごく硬いように、柔らかければ良いというものではない。
- ・我々は関節のルーズとタイト、筋肉のソフトとハードという使い方をするが、関節はルーズはダメ。良い点もあるがマイナスが大きく、怪我や痛みが出やすい等がある。柔らかければ怪我もしない、良いとよく言われるが、あれは間違い。
- ・それぞれ個別に見ていかなければならないが、合計点を出して高いとか低いとか言うからおかしくなる。
- ・これは勉強していかないと、運動が得意ではない先生方はたぶん分からないと思うが、こういった事を共通認識として持てれば、先生方もそういった見方をしてくれると思う。
- ・体力、体育、運動、スポーツと色々出てくるから混同してしまう。体育とスポーツは全然違うので、表現は考えていただきたい。

【委員】・個人差の見方だけでなく、運動の能力には基本的な生活習慣、家庭の背景のようなものが密接に関わってくるため、この数字はあった方が良いと思っている。

【委員】・今までの話を踏まえると、幼児教育期での遊びと連携させながら、そういったことを大事にしながら教育を続けていくことが求められる、といったような文言があると良いのかなと思う。

【委員】・保育園で公開学習の研究会があり、その助言を受けて毎年学習をしており、運動遊びは欠かせないものとして公開保育の中に入れられている。小学校の先生もそれを見ている。

- ・運動や体力は、これから生き抜く力の基礎だと思っている。
- ・入れてくださいということよりも、つなぎの重要性を考えていただきたい。

【副座長】・いじめ、不登校防止について、先日日本海新聞で暴力行為が小学校で増えているという記事があった。

- ・鳥取県内の問題行動調査といった結果があると思うが、データはあるか。

【事務局】・三朝町では暴力行為として学校から報告は上がっていない。

- ・年間30日以上欠席等、不登校の基準を満たす欠席日数があった児童について数字を記載している。

- 【副座長】・大事なのは、悩みを抱える児童のストレスを丁寧に聞き取る等、小さな変化を見逃さないこと。
- ・不登校が中学校で7人とあるが、原因についてはどうか。
- 【事務局】・7人の中には、病気がちで京阪神の病院へ通われる方、家庭の問題による方等あるが、いじめなど友達関係で不登校ということではなく、家庭環境が大きいと認識している。
- 【委員】・平成28年は中学校の3人が平成29年は7人になっている。1年で4人増えたという事か。
- 【副座長】・卒業していく場合もある。
- 【委員】・どういう増え方なのか。やはり家庭環境なのか。
- 【事務局】・小学校の時から休む日数は多いが、不登校までの判断をされない児童が中学校に行くと、少しは人間関係もあると思うが、基準の日数を超えてしまうということもある。
- ・具体的に何年生が増えたというのは覚えていないが、家庭環境による方が多かったように記憶している。
- 【委員】・小学生から中学生になった時に不登校になったとすれば、環境の変化によるものではないのか。
- 【副座長】・小学生から中学生になるときに不登校になるというのは全国的に多い。
- 【委員】・数字を見ると環境変化によるものもあるのではないかと思う。
- 【委員】・今までは3つの小学校が中学校で1つになるため、中学生にとっては環境が変わるタイミングであったが、今後の10年を考えると、小学校が統合されて小学校と中学校は同じ環境になる。
- ・その背景はさまざまだが、現状として不登校生徒がいる事を認識し、小学校統合により子どもを取りまく環境も変わるため、今後も注意が必要というあたりの表現で良いのではないかと思う。
- 【副座長】・教師も親も小さな変化を見逃さず、十分な支援をしなければならない。
- ・日数が30日を超えたらカウントするため、この7人というのは1度も学校に出て来ていないという訳ではない、ということで良いか。
- 【事務局】・一切出て来ないという生徒はいない。
- 【副座長】・例えば腹痛で休んだとしても、年間30日を超えれば報告するように決まっているため、不登校にカウントする。
- ・知らない人がこれを見た場合、この7人は全く学校に行かず何をしているのか、というように捉えられる場合もあると思う。
- 【委員】・三朝は少ないか。
- 【事務局】・少ない方だと思う。
- 【副座長】・1年間あるいは2年間、全く出てこない生徒がいる学校もあるため、7人の状況が気になった。
- ・精神的な要因で腹痛になりやすい子どももいるため、そういったものも不登校の

一因になりえると思う。

- ・安心してはいけませんが、7人の中に1回も学校に出て来ていない子がいない点では安心した。
- ・学校に出て来てくれている以上は、生徒同士や教師、人との関わりも出来ていくため、改善に向かう事ができると思う。
- ・7人に増えたという点では考えなければいけない。

【事務局】・7人については確認する。

- ・1年間出ていないイメージがあるため、不登校の定義の記載等について検討する。

【副座長】・学校に出ていれば、この7人も部活等もやっており、年間欠席日数が多いということでは不登校にカウントされたのではないかと思う。

- ・発生率等の記載はあっても良いか。何%にする等、指標になっているか。

【事務局】・指標にはない。

【副座長】・特別支援教育における支援体制について、文章化はしなくて良いと思うが、現在支援が必要な子どもは小中学校で何名いるか。

【事務局】・特別支援教室ということで、普段から従業を別のクラスで行っている児童は、小学生が10数名、中学校は2、3人だったと思うが、確認したい。

- ・特別支援教育支援員さんは、特別教室にいかないけれども、普通教室で勉強している少し情緒的に不安定な子どもに寄り添って、というような仕事も行っている。

【副座長】・特別支援教育支援員さんが4人というのは結構多いと思うし、授業に合わせた柔軟な対応が出来るのではないかと思う。

- ・特別支援が必要な子が何年度何人という情報はないが、このままで良いか。

【各委員】（意見等なし）

【副座長】・子どもの貧困問題について、各学校にはその学校の対象者数等のデータは来ていたが、町全体のデータというのとはなかった。

- ・要保護、準要保護だということは、子ども同士であっても分からないように配慮している。
- ・敏感な問題であるため、全体として増えていることが分かれば、ここまでの数字を出す必要はないのではないか。

【委員】・背景に個人情報も多く含む。

- ・経済的な援助なりさまざまな支援が増えているが、対象者数を出すことは切ないため、検討が必要だと思う。
- ・自分の努力ではどうにもならない部分があり、それは差別の対象になる。
- ・表としては人権的な部分で課題があると思う。

【副座長】・各学校まで全体のデータは降りてこない、教育委員会だけで持っていれば良いと思う。

【委員】・学力も、スポーツテストも、就学援助も、こういった会の中だけで分かれば良い。

【副座長】・このビジョンを作成した場合、インターネット等での閲覧はできるか。

- ・仮に概要版で省略したとしても、閲覧できてしまっただけでは意味がない。

- 【委員】・これは教育の中で解決するための到達目標が持てない課題。
・個人的な情報だと思うので、ない方がよい。
- 【委員】・表はいらぬとして、文書の中でも17%とあるのが気になる。どういった表現にするのか。
- 【副座長】・増えつつあります、くらいの穏やかな表現でどうか。
- 【委員】・持つべきデータを持ち、実態をつかんでビジョンをつくることは大事だと思うが、全てを載せるかというところで課題だと思う。
- 【委員】・最初の厚労省の全国データの記載は残し、本町の部分を変えてはどうか。
・項目としては必要だと思う。
- 【副座長】・表現については検討してもらおうということで良いか。
- 【各委員】・(意見等なし)
- 【副座長】・学校教育施設の現状について、既に小学校が統合することが決まり、適正規模、適正配置になるものと考えるが、1番最後の段落、適正規模・適正配置を見据えた学校づくりとある。書き方はこれで良いか。
・建築年数等の表についても問題ないということで良いか。
- 【各委員】(意見等なし)
- 【副座長】・ビジョンの基本方針について、15、16ページから説明してください。
- 【事務局】・骨子から大きな変更はない。
・15ページは基本理念と目指す子ども像について、16ページは関係機関等取り組み体制、周知方法、PDCAサイクルについて記載している。
- 【副座長】・意見等あるか。
- 【各委員】(意見等なし)
- 【副座長】・17ページについて説明してください。
- 【事務局】・17ページは、18ページ以降についてまとめたものを記載している。
・5つの目指す子ども像それぞれに沿った基本目標の設定と、その子ども像の実現を支援する為の目標として2点、計7点の目標を設定することについて記載している。
- 【副座長】・前回と表の左右が変わっているが良いか。
- 【各委員】(意見等なし)
- 【副座長】・基本目標(1)確かな学力の育成について説明してください。
- 【事務局】・今回、基本目標(1)だけ全ての内容を記載しており、基本目標(2)以降は一部省略している。
・前回指摘があったように、平成32年度以降から実施される学習指導要領を踏まえて記載した。
・各基本目標に対し成果指標を定めることとしている。
・成果指標の一部は、全国学力学習状況調査の中の質問紙を基にしている。
・1つ目は全国学力学習状況調査の全国平均値を100とした時、三朝町としてどこを目指すかという表現にしている。

- ・ 2つ目と3つ目の項目は、質問紙の項目の中で学力の育成に関係する質問内容の結果と目標を記載している。
- ・ 基本的方向について変更はないが、基本目標（1）については具体的施策を4分類に分けて記載しており、分類毎の各具体的施策に対する説明書きおよび、対応する具体的事業を記載している。
- ・ 具体的事業「など」とは、各学校への取り組みも入れていくために「など」という表現をしている。
- ・ 星印（★）は現在既に予算化し、事業を行っているもの。それ以外の今後取り組むものについては星印が付いていない。

【副座長】・ 指標を定めて評価をしようとするれば、客観的なデータは全国学力学習状況調査を使うしかないのかなと思う。

・ 各質問紙の指標に対する％は、全国学力学習状況調査で答えた児童数の割合ということで良いか。

【事務局】・ 良い。

【副座長】・ 全国学力学習状況調査だけが指標ということ。

- ・ 18ページについて何かあるか。

【委員】・ 悩ましいのは何を指標にするか、何を測るかということ。

- ・ 目標値の根拠も必要になる。
- ・ 例えば文言の中に学びの連続性を重視しているとあり、学ぶことの継続性が大事だが、これをどう測るかということになる。

【委員】・ 現場の先生方はこういう指標を見ながら教育をされるのか。

- ・ 数字が載っている以上、子どもにとっても教育の中身として意味があることが大事だと思う。

【副座長】・ この指標は結局、全国に対しどれくらいかということになる。

- ・ 全国平均、県平均に対し劣っている、優れているという判断をする校長先生もいるかもしれないが、多くは一人ひとりの力を見ている。
- ・ 例えば算数Aが出来ていない児童がいれば、そこを強くする努力をするために利用する。
- ・ 連続性とあるが、何を指標として示すかが難しいため、書こうと思えばこういった書き方になるのかなと思う。

【委員】・ この成果指標があるから、基本的方向のまとめがきちり書けるのかなと思う。

- ・ どれも大事だが、基本目標の1番として確かな学力という項目が書いてあるため、特に重要なのかなと思っている。

【副座長】・ 根拠として利用できる客観的なデータとしては、全国学力学習状況調査を使って示すことが分かりやすいのかなと思う。

- ・ 学校独自のデータを作ってみても意味がない。
- ・ 19ページにきめ細かな事業の推進として各事業が記載されているが、実際には、これを受けて各学校の校長が、学校経営ビジョンの中で個別の事業、具体的な施

策を決めて目標を実現していくことになる。

- ・例えば、新三朝小学校長の経営ビジョンとして、町教育ビジョンを受けて更に具体的なものを作っていくことになるため、その成果、評価を客観的に示すことが出来れば良いと思うが難しい。

【事務局】・学力で考えると、なかなか指標がない。

【委員】・実態把握ができる資料として記載し、考察していこうという考え方は良い。

- ・この成果指標の項目等、示し方は既にあるものか、独自につくったものか。

【事務局】・今回つくったもの。

【副座長】・例えば下2つは全国学力学習状況調査の質問紙のうち、学力につながるものを記載したもの。

- ・例えば忘れ物をすると学力が下がるという傾向もあるが、そういったデータを指標としても曖昧なものになり、そのための調査も行わなければならなくなるため、既存の客観的データを利用するのも手段の1つ。
- ・小学生116等、設定された目標値について計算してみたが、これ以上の数字は厳しいのかなと思う。

【委員】・文書だけでは具体的なものにならないため、しっかりとした指標が必要。

【副座長】・客観的なデータがないと評価が出来ない。

【委員】・この指標がどう生かされるかは、それぞれの校長の対応によると思う。

【副座長】・確かな学力の育成とは、家庭、行政、教育委員会、学校との連携、保育園、小学校、中学校の連携というように、学力を上げるための素地としての保育園、幼稚園からどんどんつながっていくものだと思う。

- ・一人ひとりに応じたきめ細かな授業の推進として各事業が記載されているが、これだけではないという話を以前、事務局にした。
- ・少人数の教室を利用した学習活動で、きめ細かな授業が出来るかといえばそうではなく、集団の中でも、きめ細かな授業はやっていかなければならない。
- ・例えば授業の在り方なども学校毎の裁量による。
- ・ここに記載された事業の下にもっと具体的な事業があるが、それを記載してしまうと、学校の独自性やビジョンが狭められることになる。
- ・きめ細かな授業を推進するためにどうしていくか、学校の先生がより具体的なものを考えて実践することが有効だと思っているため、ここには大まかな事業が記載されているものと思っている。
- ・19ページ1行目の表現について、これは2通りの考え方があり、1つは必要な知識、技術を習得することで教科内容の理解を深める、促進するという考え方。しかし文面通りに読むと、知識と技術の2つの柱があり、スパイラル的に教科内容の理解が深まるというように読める。分かりにくい表現について検討していただきたい。
- ・外国語指導助手活動「費」とあるが、これは予算を確保しているということか。事業名に修正されてはどうか。

- ・中学校問題データベースという言葉、町報に説明が出ていたから分かったが、初めて見た時、中学校にいじめ等の問題があるということかと勘違いした。※等で注釈を記載することも検討されたい。
- ・自主的な学習活動の推進について、学力アップ土曜学習事業は今もやっているか。
- 【事務局】・小学校では学習にかかるものが2日間、音楽にかかるものが2日間、中学校では9月ごろから2月ごろにかけて約11回、午前中に行っている。
- 【副座長】・20ページ教科教育の充実について、社会人になるうえで必要な知識、技能の習得を図るという文言がある。例えば具体的事業に理数教育の充実とあり、これは高1を対象とした学習到達度調査（PISA）の抽出だと思うが、社会人になるうえで必要な知識技能を図るのであれば、なぜ社会科が抜けているのかなと思う。
- 【事務局】・これは次期学習指導要領で、改正のポイントとして大きく上げられたものを記載している。
- 【副座長】・社会人になるうえで必要な知識技能と言えば、個人的には社会科が有効だと思っており、少し疑問に感じた。
- ・キャリア教育の推進について、思春期ライフプラン教育事業、小中学校総合的学習事業とは何のことか。
- 【事務局】・小中学校総合的学習事業については、各学校の総合的学習の中で特徴のある取り組みを行っているものについて事業として認め、町がその費用を負担しているというもの。
- 【副座長】・総合的な学習の時間を利用して、特色のある授業をする事業ということで理解した。
- 【事務局】・思春期ライフプラン教育事業について、そもそもは思春期に向かって自分の今後のキャリアについて検討する機会を持てたらということで考えていたが、現在中部1市4町で、この思春期ライフプラン教育事業というものを共同で実施しており、講演会などこれに関連する事業を行っているため記載したもの。
- 【委員】・19ページI-②自主的な学習活動の推進に関連して、メディアとの付き合い方について、授業等で行っていないか。
- ・学校であればノーテレビデーを行っている。
- ・現代を特徴づけるものとして、情報化やスマホ等メディアの発達というものがあるので、そうすることにも取り組んで家庭学習時間、習慣の定着や、自主的な学習活動につなげているということが言えるのではないか。
- 【事務局】・今現在は、それに特化したものはないかもしれない。
- 【委員】・保護者対象の講演会はあるのではないか。
- 【委員】・メディアとの付き合い方のようなもので、該当するような事業があれば検討していただきたい。
- 【副座長】・情報教育の充実について、ICT支援員の配置とはプログラミングをするうえでの支援ということか。
- 【事務局】・「プログラミング的」とは、機器を使わなくても考え方の部分ということ。

- ・ICT支援員は、タブレット端末やプロジェクターを使った学習を行う際、教職員の方々が不慣れであったり、子ども向けにこういった教材を作ったら良いのか、というアドバイスをしていただければと考えている。

【副座長】・デジタル教科書は全学年全クラスで使用しているのか。

【事務局】・全て使っている。

【副座長】・授業が深まり大変便利だと聞いている。

【委員】・未来を拓けみささっ子創造事業の中身はどういったものか。

【事務局】・児童生徒に著名な方々の講演を聞いていただく等により、将来の夢を描いてもらう事業。

【委員】・体験的な授業について検討していただきたい。

- ・例えば三徳山の座禅は他の市町村の小学生も体験に来たり、食育の推進の話にもなるが、神倉大豆を使った収穫を子どもにさせたりということもある。
- ・有名な方の話も良いが、地元の方との交流も大切。
- ・ある町では100年の梨の木として、袋掛けや消毒等を4年生の授業として取り入れている事例もある。
- ・みささっ子としてこれからの三朝をどのようにと考える時、今ある体験を総合的な学習の時間の中で教育の中に入れていただきたい。
- ・総合的な学習の時間に、職場体験だけではなく他にも三朝町の中でできることがあるのではないかと感じる。

【副座長】・21ページ、Ⅲ－①特別支援教育の推進とⅣ－①保・小・中連携の推進について、「充実化」という言葉がすごく気になる。「化」は不要ではないか。

- ・Ⅲ－②不登校児童生徒への支援の充実について、「いじめ不登校対策事業」と「いじめ問題調査委員会開催事業」は、基本目標（2）豊かな心の醸成の中で、I豊かな心の育成に入るのではないか。

【事務局】・検討する。

【副座長】・まだ相当あるが、どこまで進めれば良いか。

- ・今後開催できる回数の事もある。そのあたりはどうか。

【事務局】・まだ具体的施策について具体的な事業を加える等の作業が残っているため、本日はいただいた意見を踏まえた修正を行い、それらを加えたものについて次回、確認をお願いすることとしたい。

【副座長】・本日は基本目標（1）確かな学力の育成として21ページまでとして終了する。

【事務局】・検討事項が多く申し訳ない。

- ・資料を整えあらためて送らせていただくので、次回もよろしくお願ひしたい。
- ・その他何かあるか。

【事務局】（意見等なし）

【各委員】（意見等なし）

【事務局】・次回の日程についてはあらためて調整させていただく。

- ・以上で第2回会議を終わらせていただく。